第２回山梨県総合教育会議　会議録

開催日時　　令和元年１０月２４日（木）　１５：３０～１６：３０
開催場所　　山梨県庁　特別会議室
出席委員　　知事　長崎幸太郎
　　教育長　市川満
教育委員　　武者稚枝子、三塚憲二、加藤正芳、佐藤喜美子、岡部和子
事務局　　弦間正仁県民生活部長、小澤祐樹県民生活部次長
　　井上泰子私学・科学振興課長　ほか私学・科学振興課員３名
　　斉木邦彦教育次長、廣瀬浩次高校教育課長、本田晴彦高校改革・特別支援教育課長、古屋登士匡企画調整主幹、小俣達也教育委員会主幹　ほか総務課職員１名、高校改革・特別支援教育課職員２名

次第
１　開会
２　挨拶
３　議事
（１）「山梨県立高等学校 長期構想」について
（２）その他
４　その他
５　閉会

■長崎知事挨拶
本日は教育委員の先生方には、大変御多用中のところお集まりいただきまして本当にありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。
御承知のとおりですが、この総合教育会議というのは、教育委員の先生方と知事が意思疎通を図って、連携して教育行政に取り組んでいくためのものであります。本日は、本年度、教育委員会において作成していただく予定の「山梨県立高等学校 長期構想」につきまして、委員の先生方からの御意見をいただき議論を重ねたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

■市川教育長挨拶
それでは、一言御挨拶申し上げます。長崎知事におかれましては、平素多くの教育行政に対しまして、格別の御理解とお力添えを賜っておりますことに、まずもって御礼申し上げます。ありがとうございます。

さて、後ほど事務局から説明があると思いますが、県立高等学校につきましては平成２１年に整備基本構想を策定いたしまして、未来に魅力と活力がある学校づくりを行ってきましたが、本年度が計画期間の最終年度になっております。

一方で策定以来、少子化、グローバル化の進展が著しいということと合わせまして、ＡＩ等の情報ニーズが格段に進歩したことで、なかなか予測がつかない不透明、錯綜した時代に突入したとも言われています。

そうした中にあって、１０年間を見通した新たな構想をつくるということにつきましては、様々な立場、様々な御意見をお聞きしながらつくっていくということが重要だと思っております。そういった意味におきましては御知見のある、また、人脈の多い長崎知事、それから我々教育委員も一人一人が専門分野にこだわっておりますので、こういうところで意見交換するというのは、大変いいことだと思っております。ぜひ今後の１０年間の的確な構想を作ることについて、本日活発な意見交換が行われますよう申し上げまして、挨拶に代えさせていただきます。

本日はよろしくお願いいたします。

■井上私学・科学振興課長

議事に入ります前に本日の会議について御説明させていただきます。本日、初めて御出席いただきます委員もおられますので、改めて総合教育会議について簡単に御説明させていただきます。

恐れ入りますが、お手元の資料１を御覧いただけますでしょうか。

この会議につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づきまして、知事と教育委員会が相互の連携を図りつつ、より一層民意を反映した教育行政を推進していくために、平成２７年度に設置したものでございます。

総合教育会議におきましては主に①の「大綱の策定」、②の「教育を行うための諸条件の整備その他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策」などについて協議または調整を行うこととされております。本日の会議は、この②の「重点的に講ずべき施策」に関する協議を行います。

なお、本会議につきましては、山梨県総合教育会議設置要綱により、公開いたしますとともに、会議終了後に議事録を作成し、県のホームページで公開いたしますことを、御了解いただきますようお願いいたします。

それでは、これより議事に移らせていただきます。議事の進行につきましては、長崎知事にお願いいたします。

■長崎知事

それでは、議事を進めさせていただきます。

まずは、議題１の「山梨県立高等学校 長期構想」につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

■本田高校改革・特別支援教育課長

資料２をお願いいたします。県立高校の長期構想策定に必要な事項として本年８月に高等学校審議会よりいただいた答申の概要でございます。答申の内容は枠内、１０の項目について提示されています。

資料３と内容が重なりますので、資料３の１ページをお願いいたします。資料の左側の枠内に答申の内容を記載してあります。右側の点線の吹き出しには関連する現在の主な取り組みを記載しております。

まず資料左上、「構想作成上の視点」では、可能性に挑戦するために必要となる力の育成など大きく４点が示されております。

その下の項目、「高等学校のあり方」では、１学年１６０人から３２０人が適正規模とされ、再編の検討に地域の実情等を考慮することや、県外募集の実施も視野に入れることが示されています。右側の枠のとおり、現在、県外募集は県境の３校で行っております。

左側に戻りまして、「公私のあり方」では、公私両輪での高校教育振興、長期的視点等からの定員策定が示されております。

その下の項目、「入学者選抜制度」では、全県一学区、前期募集の維持が示されております。

一番下の項目、「グローバル化への対応」では、外国籍生徒へのカウンセラー等のフォロー体制、就学の助成制度の理解促進、日本語の苦手な生徒を高校進学へつなげる対応や、多文化共生に理解のある生徒の育成、将来のグローバルリーダーの育成等が示されております。右側の枠のとおり、入学者選抜における特別措置の実施等を行っています。

２ページ目をお願いいたします。左の「人材育成」の上側の枠、「将来のイノベーションリーダー・グローバルリーダーの育成」では、ＡＩ、ロボットの学習、論理的思考力などの育成や、リーダーとしての責任感の醸成、継続性の高いキャリア教育のための６年間の中高一貫教育の活用などが書かれています。右側の枠のとおり、現在、最新技術に触れる校外学習や、大学等と連携した教育プログラムなどを行っております。

左側の下の枠、「地域経済を支える産業人材の育成」では、学科横断的な学習機会の提供や、産業間の連携を図るような幅広い実践的知識、技術を有する人材の育成、産業界と連携した授業、また、人間力を高める教育なども求めら

れております。右側の枠のとおり、現在、時代の要請に合わせた学科や総合学科の系列の改編、関係教育機関や企業との連携などを行っております。

３ページをお願いいたします。左上、「多様な分野の人材の育成」では、中長期的な観点から、生徒や社会のニーズを踏まえた学科等の展開、多様なコース設置の検討、地域産業を支えるリーダーの育成などが示されております。右側の枠のとおり、総合学科の系列の多様性や、総合制高校の多様性を活用した教育等の展開に取り組んでおります。

左側の次の項目、「多様なニーズへの対応」では、多様な学びのための定時制の多部制・三修制の維持や、通信制におけるＩＣＴ端末の活用など、様々な学び方の展開、また、不登校生徒等の高校進学対策などが示されています。右側の枠のとおり、現在、定時制における少人数教育や、職業的自立に向けた社会性の育成、また、通級指導の導入を行っております。

左側の次の項目、「中高一貫教育」では、併設型・中等教育学校について、設置前提ではなく、交通の便、進学ニーズ、地域活性化など、様々な視点から検討することが示されております。

左側一番下の項目、「地域との連携」では、地域住民と学校・生徒を結びつけ、地域や家庭の教育力向上などに向けたコミュニティ・スクールの導入や、地域に潜在する人材の教育活動への参加も示されております。右側の枠のとおり、現在、交流イベントなどの地域に開かれた学校づくりのほか、様々なニーズに沿った学校づくりを推進しています。

４ページをお願いいたします。左上、「ＩＣＴの活用」では、生徒の学習促進や生徒自身が実践を重ねながら活用できるようにする取り組みの検討、教員の負担軽減と働き方改革への寄与、学校運営上のメリットを生む活動や教員の知識や技術の向上など、学校の課題を解決するための活用も示されております。右側の枠のとおり、現在、民間教育サービスを活用した学習の自己管理、目標管理や教務業務のＩＣＴ化を進めております。

左下の「学校経営」では、長期的ビジョンとＰＤＣＡによる学校経営、社会が求める学校づくりや地域、産業界等との連携、協働などが示されております。右側の枠のとおり、現在、校長のリーダーシップによる「チーム学校」体制の推進などに取り組んでおります。

説明は以上となります。

■長崎知事

それでは、ただ今、事務局から説明がありました長期構想につきまして、まず、資料３の１ページから３ページまでに対して御意見をいただきたいと思います。武者先生からお願いします。

■武者委員

私は特に、この１ページ目のグローバル化への対応というところに、お願いしたいことがあります。

昨年のちょうど１年前、中央市の田富小に行って参りました。そのとき、学校の児童・生徒が、約３５０人いたのですが、そのうちの１５％くらい、平成３０年で５２人が外国籍の子どもだということでした。それに対しまして、通訳をする担当の先生が１人しかいない。特に多いのは南米で、ブラジルからの方が多くて、ほかにペルーですとかフィリピンやタイの方なんかがいる。タガログ語のみしか話せないこともあり、先生方がお子さんの教育もですけれども、保護者への対応も非常に苦労している現状が明かされました。

母国ではすごく優秀なお子さんだったとしても、日本語ができないということだけで、学習が困難になってしまうという現実が実際にあって、ひいては高校に入れない、入学診断の試験を受けられないという現実があるということを学校の先生から伺いました。

この外国籍の方たち向けのコースを、ぜひ高校で作っていただきたいと思います。都内ですと５校くらいモデル校を作っているというところもあると聞いたことがありますので、そういった日本語がなかなか上手くいかない、でも勉強がしたい、できるというようなお子さんたちの教育を小中高と連携して取れるような仕組みを山梨県でもつくっていただければと思います。

そういったお母さんたちについては、そこの学校は入れるよというと１つの小学校に集まってしまうようなのです。やはり、それはお互いいろいろ心細いということがあってと思うのですが、また、一方でこの地域に住む親御さんたちがこの学校は外国籍の子どもが多いから、学習進度が遅くなるのではないかといって、市外、町外へ越境で行ってしまう。あるいは私立の高校に流れてしまうという地元の意見もそのとき聞きました。やっぱり、そこにいる地元の方と海外からいらっしゃっている方との交流を今もされているでしょうけれども、もう少し県がバックアップしていただけたらと思いました。

以上です。

■長崎知事

加藤先生お願いします。

■加藤委員

ここに書いてあるものを自分なりに３つほど要約しました。

その１つは、この長期構想に対する意見となると、高校教育というのは義務

教育に続く最終過程になるんです。生徒からすれば高校を卒業して就職する人、大学に進学して将来を見通すと、こういった視点において、ものを見るともっと教育のあり方として、私は生徒の実践を引っ張り出して、そこにテーマを与えるような項目を一部加えないとならないのではないかと思っています。

その１つの表れが、今の社会現象として悪い話ですけれども、いろんな所に就職するけれども、離職率がとても高い。３年いれば４０％近く辞めてしまう。これはどこか視点が違っている、マッチングしていないということなので、その為には個人のもっと意欲を出して、そこを助長していけるようなものを加えていただくことが必要ではないかと思っています。

２点目は、産業人材について、先程説明をいただいていますが、これは山梨経済を牽引している部分で、経済の基軸として量、質ともに実践教育や技術教育に一層力を入れていただきたい。

グローバル化ということは、先程、正に武者委員が言ったとおり、我々も一緒に学校を訪問していますけれども、かなり問題があり、日本語が話せないことでコミュニケーションを取れないということがある。私が申し上げたいのは、もう１つのグローバル化という世界をトレンド的に生徒にいろいろ教えてあげる必要があると思います。そこがないと、やっぱり学校で出てきたことだけをやるようになってしまう。大月の１日教育委員会で話題になりましたが、今やいろんなネットワーク、あるいはいろんな形でのＳＮＳがどんどん入ってくる。これは世界的に言えば避けては通れない話で、第４次産業革命は情報通信が中心ですから、グローバル化を進展させるということは、日本は世界において先進国になっているので、こういった方向に対して、日本人もその一角を担うように、そういったことを教えた中で細々したことの教育を付け加えればいいと思っています。

その３点です。

■長崎知事

ありがとうございます。岡部先生お願いします。

■岡部委員

私はスポーツにも関係しているので、そこに少し触れさせていただきながらお話しさせてください。教育には不易と流行というものがあって、教育には時代とともに変えていかなければならないものと、いつの時代も大切にしていかなければいけないものとあると思います。そこにはやはり人と人との交流を大切にする地域人材も必要だと思います。

特にスポーツについてですが、先般、私が茨城国体に行かせていただきまし

た。ラジオ体操をつくったのが、茨城県の出身の方でありまして、開会式では小学生が６００人程ラジオ体操をやっていました。普通ならば、いろんな方にお金を払って開会式のアトラクションを全部お願いすることが多いのに、あえて子どもたちにやらせていました。一歩間違えれば管理下にあるような気がしますけど、大変若々しい感じが出ていました。そういう意味でやはりこういうものを変えてはいけない、人との交流と地域人材を生かしてこういうものがある、先輩たちはこういったこともやってきたんだよということで、地域の一体感をすごく感じた国体だった気がします。

その一体感や活力を助成するために、今回の高校教育のあり方で、連携型中高一貫校を身延高校の地域につくったというところが私は非常にいいと思いました。でも、いろんな面で総合学科においてもそうですが、保護者の方たちの願いが、看護系や福祉系など、今の時代のニーズに合わせたものになっています。実際的に総合学科を見てみると、福祉系を一本でやっているわけではなく、そこには自分の生活のラインとして入っているものもあります。例えば、家庭科的なものもやってみたいとか、デザインをやってみましょうとか、それも一緒にやってもいいなと。そういう意味から考えると地域の人たちを使いながら、地域が望んでいる総合学科もつくっていかなければということで、ＰＴＡの考えが必要だと思いました。

それで先程のスポーツのことですが、やはり文科省の方からも、山梨県からも平成３０年に文化部も含めた部活動のガイドラインを出していただきました。それを見て先生たちが、いろんな面で子どもたちに関わっていく中で、科学的な根拠を持って指導できるようになると思います。

今回のラグビーを見てお分かりのように、にわかなファンがあれだけ増えました。そういうことを考えたときに公私のあり方の１つにもなるんですが、私立は独自のもの、特色を出すために、スポーツをもっとやろうというところもあるかと思います。県立には難しいところはありますが、前期募集では成功していると私は思います。全県一学区で特色を出すことができるからだと思います。こういうことの考え方も、不易と流行で流行として捉えていいと思います。そのときには、やはり教育は時代とともに変わっていくので、前期募集、後期募集で前期は特色を出してくださいということで子供たちを募集していると思います。だからスポーツが好きな子はそこに行きましょうということもあると思います。公立で今現在、活躍がみられるのは、やはりラグビー。私立でラグビーをみられるものはそんなにない。こういう特別なスポーツと言ってはいけないとは思いますが、同じようにアーチェリーもそうだと思います。公立高校が大変頑張っている。そういう意味でこのガイドラインの中の科学的な根拠や活動計画、あるいは長期に渡って受け持っていらっしゃる先生が多いという

のが、山梨県の公立高校の先生が素晴らしいところで、私はすごく感動しているところです。

スポーツを通して、とにかくみんなが一体になれる、みんなが盛り上げることができる。そして地域も一緒に盛り上がるには、やはり公立高校で地元の子どもが頑張っているという姿を大きく評価していくべきと思いながら、今回のこの全県一学区で、特色ある学校を表してくださっていることは大変よかったと思っています。

最後にスポーツのことをもう一度だけ言わせていただきたいのですが、ある学校では子どもたちが帰るときに、コンビニに寄って食べないように学校の食堂を夜も開放し、子どもたちはそこで食べて帰ってもいいとしています。そういうところで、ほかにも自学自習する子も食べてもいいように、夜も食堂を解放する学校があってもいいと思います。でも、それは不易からいくと、学校にそんなに遅くまで生徒を置いていいのかとなると思いますが、やはりチームとかいろんなことの考えと同じように、スポーツをやっている子どもたちのために食堂を開放する、食堂で精をつけさせるというトップの先生もいらっしゃることを報告しながら、やはり教育には不易と流行があるということを今回の長期構想案を見て思いました。

以上です。

■長崎知事

佐藤先生お願いします。

■佐藤委員

山梨県では外国人材を迎え入れた共生を目指しているということを聞いていますので、私もグローバル化への対応に関わってお話をさせていただきたいと思います。

恐らくこれから山梨も今まで以上に在留外国人が増えていくという見通しの中で、高校にも外国籍の生徒を積極的に迎え入れる、そういうことを考える時期に来ていると思います。そのためには高校入試の段階で外国籍の生徒の枠や、海外からの帰国生徒の枠、そういう枠を持つ学校の設定を特に期待しております。

さらに、外国籍生徒向けの学習コースの設置も検討していただければ、ありがたいなと思います。そういう高校ができれば、周りに諸外国の生徒が集まって、国際色豊かな学習環境の中で様々な交流が生まれて、異文化理解なども自然に進んでいくように思います。仲間同士で日本語を教え合ったり、生活の中で外国語を使う必然が生まれてくると思います。ですから国際色豊かな仲間と

一緒に学びたいコースの学習が可能になるように、そんな高校づくりを私は願っています。

これから地域医療の重要性が増してくると言われている中で、現在も福祉介護の方面は外国人労働力に頼っていると聞いています。平成２９年に県に実施していただきました高校改革アンケートによれば、生徒や保護者のニーズとして共通していたのは、看護学科や福祉学科の新設だったように記憶をしています。新しい学科、コースの設置には、恐らく時間も必要だと思います。早いうちに必要な施設、設備を整えていただいて、教員の配置も考えていただいて、ぜひそういう高校づくりが進んでいくことを期待しています。

以上です。

■長崎知事

ありがとうございました。三塚先生お願いします。

■三塚委員

皆様方がいろんな話をしていますが、長期構想ですから１０年間、高校の子どもたちをどうしていくかということを考えていく中で、一番問題は少子化が進んでいることです。１８歳人口がすごく減っている、全国的にも、特に山梨は甲信越の中でも一番その率が高いということです。２０１９年の１８歳人口は約８０７７人。それが１０年後の２０３０年になると、約６４７０人で、全体の７５％程度になってしまう、２５％程度１８歳人口が減ってしまう。

１８歳人口が減ってしまうことに対してどうしていくのかということ、こうしていきたいということは、非常に言うことがいっぱいあります。山梨県は小さい県だから小さい県の特色を生かした細かい綿密な教育ができると思います。大きな都道府県と違って１８歳の子どもたちの特色を生かしてあげることが必要だと思います。委員の先生方が言ってきたことと重複しますが、そういう教育体制をつくっていくべきだと思います。子どもの数が減ってきているので、当然、各高校で細かく子どもたちに教育をすることができるわけで、佐藤委員がおっしゃっているように、要望意見が必要だということは僕らも分かりきっているところではありますが、医療関係だけではなくて、その子どもたちの個性を伸ばせるような各高校の努力をもっと望むべきだと思っています。小さな県だから細かく綿密に教育できるシステム、そして魅力のある高校づくりに対して努力を重ねていって、いろんな分野で動けるような子どもを育ててあげないといけないと思います。ただ問題は、あまりにも細かく子どもたちの才能だけを伸ばすというような教育だと、これは人間としての教育にならない部分も出てくるので、基本的な人としてのあり方というところをまずしっかり教

えながら、山梨県の中でできる山梨県ならではの教育体制を整えていただきたいと思っています。

以上です。

■長崎知事

市川教育長お願いします。

■市川教育長

ほとんど皆さんがおっしゃったことであります。少子化という中にあって、岡部委員がおっしゃったとおり、不易ということを押さえつつも、やはりその視野を広げていくことと柔軟に対応するということについては欲張る必要があると思います。

視野を広げていくことについては、例えば１ページにありますとおり、高等学校のあり方で県境の３校で募集しているということでありますが、これを全国的に募集することもあるでしょうし、外国籍という話も今回出ましたが、これまではどちらかというと考えていなかったことに対して視野を広げていくということであろうと思っています。

もう１つ柔軟性ということについて、これも各委員さんがおっしゃっていることでありますけれども、例えばこれまでの普通科のあり方ということについても、国の方でも検討すると思いますが、変えられるものは変えていくということと、これから卒業される生徒に対しても長期構想において柔軟に変えていくことが必要だと思っていますので、視野を広げていくことと柔軟に対応していくことが大切だと思っております。

以上です。

■長崎知事

ありがとうございました。

根本的な問題なのかもしれないですけれども、高校教育が無償化されたときにおける、公立高校と私立高校の役割というのはこれまでと違ったのではないだろうかと、そう思っています。これは答申書を読んでも、公立高校はすごく授業料が安いからと書いてありますが、今は、そこの違いは取り払われていますし、そうなったときに、多分、かなり根本的な見直しが本当は必要なんじゃないかと私は思っています。

その際に、公立高校ってどうあるべきなのか。グローバルリーダーと書いてありますけれども、公立学校は税金を使うので、我々は１つの新たなローカルリーダーこそ育成する必要があると思います。地域人材が必要だというお話も

ありましたし、産業人材の話もありました。そういった中で、例えば、人口減問題について、どうこの高校のあり方というのを位置付けるのか、それと裏腹かもしれませんが、地域における必要とされる人材をどう提供して、供給していくのか、こういった観点が重要だと思います。

そういう意味では人口減という中で、高校の種類によって地元定着率の違いが出てくると思っています。例えば、工業高校は定着率が高い。だとすれば公立が果たす役割については、そちらに重点を置くべきではないのか。両方重点を置きますが、より重きを、例えば、定員の案にしろ、割り振り総数については、今まで以上に重視する必要があると私は思っています。

特にこれから、ここでは地域経済を支える産業人材の育成とありますが、地域に居場所があって求められていて、そこに定着するような子を育てるという視点が重要だと私は思っております。

定員に関しては見方を変える必要がある。進学したいところは、いろいろと特色があるのは私立、そこは自由になりますので、そのような形でいきます。

それから共生社会の方も全くおっしゃるとおりで、これもある意味裏腹ですが、これから否応なしに外国人材が増えてきます。むしろ山梨県は、外国人に選ばれる地域になりましょうということで旗を振っています。そういった中で、お子さんの教育環境は選ぶ上の重要な視点になるでしょうし、また、そのお子さんがここで育って定着してくれれば、山梨を支える重要な人材ですから、そういう意味でも今、武者先生と佐藤先生にお話しいただきましたグローバル対応というのを、今までの延長線上ではダメで、かなり格段に力を入れるべき分野であると考えています。

もう１回３ページの多様なニーズへの対応以降から、３ページに限らず聞いていきます。ほかの先生方の意見も踏まえて、御意見をいただければと思います。

■武者委員

今、知事がおっしゃられたように、外国籍のお子さんたちが増えている、ここに力を入れることは求められているものですが、あの県に行くといい教育が受けられるよといったら、そこに仕事を求めようとして海外からいらっしゃるのは、当然有り得ることです。さらに山梨には富士山があります。

同じように多様なニーズへの対応のところですが、私は医者をしておりますので、発達障害のお子さんたちの問題というのを同じように考えたいと思います。自閉症スペクトラム障害、ＡＳＤですとか注意欠陥多動障害、ＡＤＨＤ等ですね、ほかにもＬＤ学習障害とか様々な障害を持つ児童、生徒が増えているというのは明らかなことだと思います。１０人に１人は何か障害があるのでは

ないか、そうなってくるともう病気ではなく、そういった幅も広いので、個性として捉えようとなればいいと思います。医療も追いついていなくて、病院に行ったはいいけど診断されるまでに半年かかるというような事実がありますし、幅がすごくあるものですから、勉強はとりあえずできるお子さんは、やっぱりそのまま高校に進学していきます。でも、高校に上がり教科が増え、次にいろいろ段取りをつけてやらなければいけないというときに、一気にパニックになってしまってできないですとか、コミュニケーションがうまく取れないがために誤解されて、いじめのような問題になって、不登校になってしまうことがあります。高校に入ったけどなかなか高校に行けなくなって中退したお子さんの話をよく聞いたり、なんとか高校を出て大学は行ったものの、大学に行くともっと広がるので、自分で単位を取っていったりとか、漠然と広がる中で、自分の仕事を決めていったり、ここでどうしたらいいか分からなくなってしまって、とりあえず就職できないから大学院に行くとか、これはどうしたらいいでしょうという相談が非常に多いです。

小中は通級がありますが、高校はまだ、県立のひばりヶ丘高校で来年から２年くらい試みでやるなんてことも耳に入っています。ぜひそういったことをどんどん広げていって、こういったちょっと学習が、そのまま学校に入ったときに困難な子たちに対しての学習について、まずは先生たちの理解が重要です。今まで高校は、できなかったら義務教育じゃないから辞めていってもいいよというようなスタンスだったと思いますが、今はもう高校を９割以上が志望して、ほとんどの人が高校に行く、選ばなければ入れるというような現実ですから、せっかく入った子どもたちが少なくともその各高校できちんと学んで、進学なり就職なりができるように育てるということはすごく大事だと思います。こういったことは全国の保護者の方たちが本当に悩んでいて、ほとんどは通信制に行ったりとか、専門学校的なところに行ったりという方が多いようですが、県立でそういったことを手厚く見ることができたら、これはもう、ほかの都道府県からたくさん来ると思います。本当にお母さんたちも、親御さんたちも学校をすごい探しています。また、これは障害がそんなに見えていない子どもたちにとっても特別なことではなくて、学校が居心地良く勉強ができるものになりますから、こういった観点を高校の先生方にも、あるいは保護者の方にも広めていただきたいと思います。特別なことではなくて、例えば、課題のときに前もって、ほかの子どもたちよりも少し早めに伝えるようにするとか、段取りの付け方で試験があるといったときに優先順位をどうやって付けようとか、そういったところのアドバイスを希望者にはしてもいいと思います。ざっくりと形をかけるのではなくて、そういったことを聞きたい人は集まれるような形にすると、あまり精神的な負担もなくていいかと思いました。

あともう１つ、ＩＣＴの活用について先程加藤委員からもありましたように、良い悪いとかの問題ではなくて、取り入れていかなきゃいけない、少なくとも基本で使えなきゃいけないということがあると思います。しかし、８月の末に１都９県の教育委員会の協議会があって、高等学校等におけるＩＣＴを活用した教育について各県の代表と話させていただいたことがありました。山梨はそのスタートラインに立っていなくて、平成２１年度に導入したワゴンプロジェクターはもう保守期限が切れて修理ができないとか、生徒がＩＣＴを活用した授業展開とか言う前に、Ｗｉ－Ｆｉのネット環境が取れないとか、そういうレベルです。新教頭先生との話し合いがあったときも、そこが結構な高校の教頭先生から出されました。そのＷｉ－Ｆｉ環境を整えるのに築４０年以上の高校を建て替えないと無理ですというような意見が出ました。しかも、それが１校２校ではなかったです。これを使って、スマホで授業を一斉に９月からやりましょうということをしている神奈川の事例なんかを聞いて、山梨としては、まだまだスタート地点にも立ってないというところが喫緊の課題だと思いました。まずは環境を整えるところからお願いしたいと思います。

私からは以上です。

■長崎知事

加藤先生お願いします。

■加藤委員

３ページの地域との連携ということで、私も工業高校とか普通高校の評議員というのを３年、２つ３つやりました。特に工業高校はこの地元との連携が非常に強くて、行事に参加します。そして、いろんなプランニングをして、例えば、地域で何かものをつくりたいといえば、大工さんと一緒になってものを作って改善していくとか。それを見に行って評価すると非常に地域に溶け込んで、この地域社会というものはこういうものだということが、結構、子どもたちの心の豊かさとか、大人になる上でのステップを踏んでくれます。これは連携として非常にいいことだと、今まで見たところで実感しています。

それと先程知事さんから話があったように、外国からいろんな人を受け入れないと日本は成り立たないような時代になっていますが、山梨においては商業であれ、サービス業であれ、産業であれ、コア人材がいないと成り立たない。ベースになるところの中心になる人間がいなければいけないと思います。教育委員会とは外れるのか分からないけれども、産業技術短期大学校の生徒はあまり辞めない。これは非常にプラスになっていて、そこに１つのコアができていくのです。その仲間が先輩、今年入った人、後輩となると、その連携が

コアになって、外国人の指導力の強化ができます。私は一般的、全体的に考えるよりは、集中してそこを考える必要があると思っています。

その２つです。

■岡部委員

私は加藤委員とだいたい同じですが、コミュニティ・スクールのこと、地域人材のことをお話ししたいと思います。

人との関わり合いで明るく楽しく、とにかく生き生きと育てるということが私は教育だと思いますし、今の人材は地域の方だと思います。そうして教えなくてもお互いに支え合って助け合っていくことが必要だと思います。先日のような水害があったときに、子どもたちがみんな体育館に来て、集まって、今まで座りっぱなしだった子どもたちがみんな配慮していく。それはやはり、地域の人たちを見て、支え合って、助け合って育ったのだろうなと思います。

コミュニティ・スクールをこれからどんどん入れていくということですが、日本では学校経営とか方針を校長先生がお述べになって、また、教育委員会の方や校長先生に対して意見を述べたり等いろいろあります。１つ引っかかることは、教員の任用について意見を言うことが難しい。コミュニティ・スクールの地域の人たちがあの先生にもっと長くいてほしいということについて意見を述べることは、少し引っかかりはありますが、でもやはり、地域の人たちの意見というのは大切なので、私はコミュニティ・スクールを広めていくべきだと思います。

分かりやすく言うと、北海道で堀江貴文氏がロケットを打ち上げる作業をしていると思います。名前は言えないですけれども、本当にロケットが好きな人が様々な学校から毎日のように集まってつくっています。でもそれを支えているのは地域の人で、地域の人たちが食事や家をつくっている。その地域の力というのは、すごく必要だと思います。

そういう意味から考えると、子どもの問題も、それから地域づくりの問題も全部併せて捉えていくことが、コミュニティ・スクールの中で地域住民がどうするかということになります。だからここにも書いてあるように、地域の教育力を向上させるためには、地域のボランティアをするとか、あるいは、地域のお祭りやイベントに行くなどして、子どもたちがその地域のありがたさ、そしてその地域に目を向けたら、必ず地域に合わせた仕事を考えるだろうと思います。例えば、宝石は甲府には必要だということに目も向くだろうし、勉強もしていくだろうし、そうするとまたその地域の利益も上がるだろうし、やはり地域を大切にしたコミュニティ・スクールをこれから伸ばしていっていただきたいというお願いが私の心の中にあります。また、その英語力も同じように、ど

んな人も今回のスポーツの人たちを見ても、みんな語学力がすごいです。それは、やはり世界中を見通した子は、地域を見てから、世界中を見ていくわけですから、そういうことから考えれば、その語学力もどんなに子供たちが分からなくても、やっぱり優しく子どもたちに寄り添って指導していくべきだと思います。

その意味から考えると、２０２０年に始まるキャリア教育のことについても、ノートをつくったり、先生たちが見たり、たびたび寄り添ってみてあげて、そういうキャリア教育が始まっていくと思います。私たちもこれからやっていくだろうと思います。でもそれをやっていくのは、やはりトップである校長が地域のためにタウンマネージャーとして動いていかなければいけないので、校長の質というのは、私は大切かと思います。次の校長会に参加した人で、しっかりと士気を高めるような研修なり、講習会なり、やはり講習ではタウンマネージャーの学校だけではないというような部分を言っていただければいいと心の中では思います。

以上です。

■長崎知事

ありがとうございます。佐藤先生お願いします。

■佐藤委員

Ｓｏｃｉｅｔｙ５．０社会に移行していくと、高校も恐らく、より高度な科目内容を生徒の興味関心に応じて履修できるようにという流れも、一方にはきっとあると思いますが、私はもう少し生徒たちの現状の課題に目を向ける必要を感じています。

今、全国に１１万人不登校の生徒がいると聞いていますし、隠れ不登校の３３万人を足すと、全国に４４万人の不登校の生徒がいるということになります。先般、本県の教育委員会定例会でも３０年度の不登校の調査結果の報告を受けました。山梨も高校の全日制、定時制合わせまして１４７人とお聞きしました。ただこれは、前年度よりも減少していると聞きました。中学校の不登校者数というのは８００人余います。私も中学校現場で不登校の生徒たちとかなり対話をしてきました。

中学校は、「１５の春を泣かさない」ということを合い言葉にして、１人１人の進路を叶えることに教員側も全力を挙げています。そういう中で、どうしても不登校生徒の進路先というのは大変難しくて、多くは中央高校ですとか、私立高校に大変お世話になるというのが現状です。今も頭に離れない生徒は何人もいます。学校長が入学時に説明書というのをつけて、なんとか高校に入れ

ていただいたのですが、途中で高校に行くことができなくなったという苦い思い出は幾つもあります。これからの高等学校に、不登校生徒を受け入れるコースの設置や、同時に様々な背景を背負った生徒への対応に、ゆとりを持って高校の先生方が対応できるような体制を整えてもらうことを、喫緊の課題としていただきたいと思います。不登校の生徒も高校へ行きたいという希望はありますし、高校で学びたいと思っています。しかし、個々の事情があり、そして高校には高校側の限界も恐らくあると思います。現状では、それなりのマンパワーも必要だと思います。

それからグレーゾーンの生徒ですね。いわゆる、集団に馴染めないとか、コミュニケーションが取れない、そういう特別な背景、合理的な配慮を求める多様な生徒が高校に進学した後、学習活動とか、学校生活への適応のサポート体制が十分取れるような高校の体制づくりをお願いしたいです。

結論的に言いますと、山梨県の高校にはこういう生徒たちに手厚く対応する体制ができている学校があるということを広く周知していただいて、それぞれの生徒の個性を伸ばしていけるように、中学生が行きたい高校、そういう意味の特色づくりをぜひ考えていただきたいですし、先ほど知事さんがおっしゃったように、地域の人材育成ということで高校３年間、それまでも総合的な学習などで地域課題を設定して、そこに自分たちが解決策をそれなりに考えてというような学びを継続してきているので、地域の課題解決のために、高校３年間、本気になれるような、そういう意味で高校生活が満足した学びが実現するような高校づくりにこれから力を入れていただきたいと思います。

教育は人づくりだと思っていますし、機械ではやはりできないと思いますので、山梨県は本当の人間づくり、人づくりを掲げて、広く他県に周知していきたいと思います。よろしくお願いします。

以上です。

■長崎知事

三塚先生お願いします。

■三塚委員

結構皆さんと重複しますが、中高一貫教育ですけれども、今あの身延で連携型をしていますが、これはもうすごく当たり前の話です。私立を見ていくと、中高一貫で教育する中で人材が育って、いろんな大学に受かっていることは事実でありますから、やっぱり県としても、いろんなメリット、デメリットがありますが、中高一貫教育とか市で決めて、やっぱり進めていくべきだと１つは思っています。

コミュニティ・スクールという皆さんの意見が出ていますけれども、地域との連携、これは当たり前だけれども、その協議会自体をちゃんとした形で仕組みの中に取り入れるようなコミュニティ・スクールでないと、言いたい放題の形になってしまうとどうにもならないので、その辺の仕組み作りをしっかりやることが必要だと思います。神奈川は高校に導入するだけと言っていますから、そういった他県の状況もしっかり情報を集めながら、やはり進めていかなければいけない。ただ、強いて言えば当たり前の話で、実際問題として、基盤整備ができていないのが現状なので、基盤整備をとにかく早急にやっていただくということと、これは子どもたちの教育だけではなく教員の働き方改革にもつながってくるので、これをしっかりやることによって、教員の時間のある部分は、自由な時間がつくれます。ぜひＩＣＴの基盤整備を早く進めていただきたい。進めた上で、それと平行しながら、実際の使い方については、各学校に任せているのが現状なので、県として、こういった使い方をしましょうというモデルをしっかりと示していただきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

■長崎知事

市川教育長、お願いします。

■市川教育長

このまま行けば各学校の規模というのは小規模化していくことは、避けられない事実であります。小規模化していくことについてどうしていくのかということで、短絡的な思考でいきなり再編、整備ということではなくて、この長期策定の中で、学校教育というものもあるでしょうし、様々な視点からこの小規模化に対して、どう対応するのかということについては、しっかり考えていく必要があります。これは地域の活性化ということにも関係することもありますので、そこについては通ってこないというわけにはいかないので、慎重に検討する必要があり、小規模化に耐えうる対応というのは、大きな要素であると思っています。

以上です。

■長崎知事

ありがとうございました。

地域が１つのキーワードになったと思いますが、実はある調査によると、これは大人でしょうけれど、山梨県の皆さんの地域に対する愛着は全国で最も低い。義務教育の段階を始まりとして、そこを踏まえ、みんなで一生懸命やろうという中ですが、高校もしっかり自分たちの地域の良さを、それから、もうそ

ろそろ地域の構成員に半分なりかけているような存在なので、今、実習とか地域に出て行ってとか、ボランティアであるとか、いろいろあると思いますが、そういう活動で地域を一緒につくり上げていくプロセスの中で愛着も出てくるのではないかなと、そういう教育は重要だと私は思いました。

それから、発達障害とか、あるいは不登校、いろいろ課題を抱えている子どもたちの教育ですが、皆さん一番真剣に悩んでいるところで、得てして先生の理解がない場合もありますし、嫌なら辞めろと言われて、高校を追い出されて、才能が潰されるようなケースもあります。私もそこは真剣に取り組むべき問題だと思いますし、そういうお子さんとか御家庭のラストリゾートに山梨県がなればいいと思います。

今回、様々な重要な御意見をいただきまして、これを少し私自身で整理をして、また、教育長を始め、事務方に公表する中で、改めて教育委員の先生方と対話を交わしていきたいと思いました。貴重な、あるいは重要な御指摘、問題意識、ＩＣＴの話もありましたし、外国人、それから課題を持ったお子さん、地域との関わり、産業人材、これは全て山梨の地場の人材を育てる土台となる中で、向き合っていかなければならない問題になりますので、いただいた御意見を真正面から捉えて、またフィードバックをしていこうと考えております。

議題１は以上になりますが、その他ということで、せっかくの機会ですので、高等学校の問題、あるいはそれ以外の問題につきましても、ぜひ御意見があればいただきたいと思います。

■市川教育長

今回の高校の入試の願書の申請について、性別という部分を取り払ったということで、新聞などに書かれています。少しでもそこで苦しんでいる子どもたちのために、これからも気がつくことがあれば考えていきたいと思っております。また、委員の先生方にも、御意見をいただければと思っております。よろしくお願いいたします。

■長崎知事

武者先生よろしいですか。

■武者委員

そうですね。今のものと少し関わることですが、本当は段取りを取って、幼稚園保育園から、性教育をやっていくべきだと思います。

私は産婦人科医なので、特にこの虐待の痛ましいニュースを聞く度に、本当に辛くなります。保護者の方も憎くてというよりも自分が鬱とかでアップアッ

プになってしまったり、自分が虐待を受けたお母さんたちだったりすることもあって、虐待の理由、特に亡くなる赤ちゃんの理由としては、望まない妊娠だったという意見が圧倒的です。その一方で、もう日本は不妊大国です。ほしいと思っている人がなかなか子どもを産めないことがあるのが現状です。今はそんなに子供なんて考えてもいなかったっていう人が妊娠してしまって、痛ましいことになったり、あるいは生き延びたとしても、虐待を受けて育ってしまうと、脳は傷ついてしまいます。だから生きづらいという重篤な精神疾患とか、あるいはそこまでいかなくても、自分なんか産まれてこなければよかった、生きている価値がないというような自尊心の低いお子さんたちが増えてしまうという事実があります。ぜひ山梨県で性教育、命の教育を少なくとも義務教育が終わるまでには、どうやって人間は大人になっていくとか、人とのコミュニケーションはどうなのか、男性女性、性って何なのかとか、妊娠はどうすると、妊娠期間はいつなのかとか、避妊するにはどうしたらいいのか、生きるための必要な知識だと思います。別にいやらしいことは全然ないので、これは、ぜひ山梨モデルとかでもいいので、できたらと思っています。

これは各産婦人科だけではなくて、泌尿器科の先生とか、あるいは養護の先生とか、助産師さんとか関わっていいと思います。私は個人的に頼まれたところに今行っていますが、どこの学校に行っても、最低限これは知っておいてほしいことや知って大人になってほしいことがあります。これがないと、ネットなどでいろんな情報が氾濫していますので、何が正しいのかという核がない状態です。学校で１回聞いておくと、とりあえずその軸ができる。これは非常に大事だと思いますので、検討していただければと思います。

■加藤委員

今いろいろ皆さんの意見を聞いて、社会の構造は人口減少も含めてどんどん変わってきますし、それにグローバル化もどんどん加わってきています。物事を見抜けない人間というのは頭の中で迷ってしまいます。そうすると教育というのは、変えてはいけないことと、変えなければいけないことの２つあって、ここを整理して徹底する必要が私はあると思います。けれども、先ほど知事さんが言うように、あんまり地元に愛着がないというのは大問題。

■長崎知事

大問題です。山梨県で一番、実は隠れた大きな問題です。

とにかく、山梨県に誇りを持って、山梨県が大好きという子をいっぱい育てていかないといけないと思います。

一方で山梨県の教育は素晴らしいところもあります。それは自己肯定感が最

も高いことです。これは成長の土台になると思います。しかし問題は、自己肯定感が高くて、地域への愛着がなければ、外に出て行ってしまうのは当たり前のことです。なので、ここは重要課題として、教育だけに限らず様々なものを総動員して取り組んでいくべきだと思います。

でもすごいんだぞというのを他所の人に言われて、火が付く人も多いと思いますが、例えば、物産だとかいろんなものを使って見出していけるようにしたいと思っています。

■佐藤委員

子育てしやすい県で山梨は全国第３位以内にずっと入っている気がします。そういう山梨の良さも、ぜひこれからも継続でしてほしいと思います。

■長崎知事

それでは、以上をもちまして、議事を終了させていただきます。

■井上私学・科学振興課長

ありがとうございました。

続きまして、次第の４のその他になります。本日御協議いただきました、今後の長期構想の策定のスケジュールにつきまして、高校改革・特別支援教育課の本田課長から説明お願いいたします。

■本田高校改革・特別支援教育課長

答申の内容と本日の会議でいただきました要点を加え、年内を目処に原案を策定いたしまして、１２月末若しくは来年１月の初旬頃からパブリックコメントを行い、年度内の構想策定を目指して進めて参りたいと思っています。

よろしくお願いいたします。

■井上私学・科学振興課長

ありがとうございました。

次回の会議につきましては、改めまして通知をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは以上をもちまして、令和元度第２回総合教育会議を終了いたします。皆様本日はどうもお疲れ様でした。